



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間〒共1100円

道標



汗を流し心を込めて!

今年のザビエル上陸記念祭

聖師誕生五百年記念の年 装いを新たに集いに四百五十人

八月十三日(日)午後、徒歩巡礼に始まり、平和の集い、記念ミサ、信者の交流会と盛りだくさんの内容で行われた今年のザビエル上陸記念祭、そこには信者の「汗」と「思い」と「喜び」が表されたようだった。まさに聖フランシスコ・ザビエル誕生五百年の年に合わせて新しい息吹が吹き込まれたような集いとなった。

ザビエルウオーク 午後三時、祇園之洲ザビエル上陸記念碑前に集まった信者たち約百人は、カテドラルまでの徒歩巡礼「ザビエルウオーク」を担当した青年たちのリードで出発式を行った。その中で、郡山司教は「三・五キロの巡礼はザビエルさまの旅に



ザビエル像を先頭にカテドラルを目指す

はほど遠い。でも少しでもザビエルさまの苦勞を思い出す一助になる。歩くことでザビエルが伝えたかった人生の歩みに心をとめよう」と巡礼参加者たちを励ました。

強い日差しの中、青年たちが交代で担ぐザビエル像を先頭に歩みを進めた信者たちは、ロザリオの祈りを唱え、高らかに聖歌を歌い、カテドラルを目指した。途中、雨にも見舞われ、多くの人の目にさらされた一行だったが、ひるむことなく力強い声で祈りながら一歩一歩歩みを進めた。歩き終えた参加者の顔は汗と満足感で満たされていた。

平和の集い

ザビエルウオーク参加者たちの到着を待って、カテドラル正面広場で「平和の鐘を鳴らそう」の集いが行われた。この集いは鹿兒島カトリック連合壮年会(高竿寛美会長)が鹿兒島ユネスコ協会(田中弘允会

和を願う鐘が鹿兒島の街中に響き渡った。

ザビエル上陸記念ミサ ザビエル誕生五百年の記念の年の「ザビエル上陸記念ミサ」は郡山司教と十四人の司祭、二人の助祭を囲んで、四百五十人余りの信者でささげられた。

ザビエルウオークから参加した司教は説教の中で「私たちが頂いた命は派遣されている。ザビエルが残してくれたキリストの後に従うという宿題を果たしていかう」と力強く語った。その後の奉納では、ザビエル上陸四五〇年祭を機に保管されていたザビエルワインもその中に加えられ、ミサ後カテドラル中庭であった交流会で希望者に振る舞われた。交流会は、信者たちの喜びの笑顔で満たされていた。また会場ではザビエルをテーマにした川柳・手紙も披露された。

若者のエネルギーと 実行委員会の力の結集

恒例のザビエル祭は一年を通じ「ザビエル上陸記念実行委員会」が、毎月集会を重ね準備している。鹿兒島教区が日本の教会を代表して、上陸記念祭を続けられているのも同委員会の力にほかならない。この

人 お待ちしました アン神父さん

聖カルロス大神学校(マニラ)を卒業し、四月二十二日マニラのカテドラルで叙階されたポール・アン神父(三十六歳)。八月八日に鹿兒島に着き、現在、日本語習得に全力を傾けている。そのアン神父には、レジオ・マリエ



の会員で教会の中で活発に活動している母に親、それに男三

9月24日は 世界難民移住移動者の日

教皇庁移住・移動者司牧評議会を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が、国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と「共に生きる」決意を新たにす日」として設立されました。「世界難民移住移動者の日」では、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。

毎年九月の第四日曜日とされている「世界難民移住移動者の日」は、一九七〇年、時の教皇パウロ六世が



終始笑顔の語らいがあった交流会

春、実行委員長に就任した藤山喜和義さん(玉里)は、好評だった今年の集いを「成功と言ってよいのでは」。信頼して自由に企画させてもらえたおかげ」と振り返った。

今年の集いの成功には青年たちの活躍も見逃せない。ザビエルウオークを企画し、ザビエル像の神輿を、横断幕を製作した。そして祈りや聖歌で、参加者たちをリードするという大役を果たした。

郡山司教は「この企画にかかわった青年たち二十人余りが、その何倍もの人を動かしこのザビエルウオークを成功させた。鹿兒島の青年たちにこんなエネルギーがあったとは」と目を細めていた。

YET!

「祈っている」「話しかけてくれる」と信じていた幼い頃。それに「疑問符」を付け出した青年期。そして幼い頃の純粋さを羨ましがっている今がある。先日、久しぶりに自分にとって違う分野のスポーツに興じる機会を得た。他のメンバーが難なくこなせることができない悔しさと、コツをつかむことの快感とを味わった。そうだ、何事にも「慣れ」と「訓練」は必要だ、そう悟った。教区本部の「ボス」の執務室には、そのほんの片隅に小さな祈りの空間がある。何かにつけてそこで瞑想している様子。そういえばカテドラルの小聖堂では、朝となく昼となく座っている人の姿も。それらの人は幼い頃の純粋さをまだ持ち続けているのか? そんな姿を見て思いがたどりに着いたのは、祈りにも訓練が必要というあまりにも稚拙な答え。まあ、でもよい。気づいたからにはその成果は期待せず、それでも一人、何者かに挑戦してみよう。

ヨゼフ・タム神 学生からの手紙



教皇ヨ
ハネ・パ
ウロ二世
使徒的書
簡「女性
の尊厳と使命」を分かち合
いたいと思います。

現代社会はフェミニズム(女性の社会的・法律的・自己決定権を主張し、男性支配的な文明と社会を批判し組み替えようとする思想)の影響を多分に受けています。この思想は結果的に母性の否定と女性の尊厳の軽視を招いています。このような社会にあって教会は、聖書に基づく神の教えを明確にし、女性の尊厳を世に提示する使命があります。教皇書簡はその意図で発布されました。さて、教皇書簡のポイ

司教執務 の便り

この年になっても色々夢がある。そのうちの一つは、各教会の信者と直接会うことだ。会って顔を覚えることは大事かも知れないが、それだけではなくて、昔風の言い方をすれば、信者の霊的指導がしたい。指導はやはりおこがましいので、信仰生活のお手伝いをして、何故そう思うのか。それは、自分が歩んできた信仰の道のりと無関係ではない。

とくに、司祭になってからの信仰生活は、かなり荒削りだった。ある時青年

ントだけを指摘します。①「世に命を生み出す性」である女性には、神の創造の業に男性よりも直接的に協力していただきます。②妊娠・出産は神秘的であるだけではなく、神の恵みの具体的表れの瞬間となります。③妊娠するということは、自分の体内に単に新しい命が芽生えるということだけではなく、自分の命とは別の他者を歓迎すること、つまり喜んで受け入れるということです。④出産(新しい命の誕生)には常に苦しみと生命の危険が伴います。それは苦しみと死を経て復活に到ったイエスのあがないの業にも通じるものです。⑤母親の子供に対する愛は必ず自己放棄を伴うものです。それは神の愛と同じです。⑥旧約聖書では「女(エヴァ)ですが、新約聖書ではマリアを通して救いが実現しました。⑦聖パウ

ロはマリアのことを「キリストの母」と呼びます。それは救い主をこの世に送った神の協力者となったので、救いの道具としての教会の母、ひいては全人類の母だからです。(要約・文責 中野)

やろうかな「信 仰よろず相談日」

も重たい。何も見えてなかった。穴があつたら入りたいことばかりが多い。唯一救いがあったとすれば、曲がりなりに、正直な自分と向き合い一人で祈ることを教えて貰っ

薩摩の殉教者

レオ税所七右衛門④

殉教へ

レオが京泊の教会を最後に訪ねた(11月1日)頃、領主北郷加賀守は4人のキリシタン侍に信仰を棄てるように命じた。洗礼を受けたばかりの1人を除き、他の3人は信仰を守ることを宣言。そのため北郷加賀守は旧臣のレオを見せしめとすることにした。取り調べは11月14日から3日間にわたって行われ、レオが棄教の命令を拒否するなら死刑に処すとのもくろみであった。取り調べの間、友人や親戚、他の家臣たちが表面上だけでも領主の命令に従うように勧めたが、レオはいつものように静かな態度で皆に答えた。「他のことなら殿に従うことはできるが、信仰だけは棄てることができない」と。

と口論になり、怒気たつぷりの売り言葉に買い言葉の応酬。「ああ、勝手に出て行けばいい!」それ以来彼は顔を見せなくなつた。「そんなことを言えば、自分の信仰と矛盾する。」主任司祭の言葉が今

ていたことかも知れない。常識と信仰。思いこみと信仰。公教要理と信仰。課題は多い。信仰生活にもコツがあること、コツを外すと時間をかけるわりには腕が上がらないこと。また、信者一人ひとりが自分なりの信仰の味を出すためにはどうしたらいいかなど、分ち合いながら学んでいきたい。とりあえずは、「信仰よろず相談日」でももうけますかな。



教皇ヨハネ・パウロ二世の自伝的回想 「立ちなさい さあ行こう」

前教皇ヨハネ・パウロ二世 著
中野裕明 訳

教区本部の中野裕明神父が心血注いで訳したものがこのほど本にまとめられた。タイトルは「立ちなさい さあ行こう」。前教皇ヨハネ・パウロ二世が司教職へと召し出されたときの様子から、その教皇が「司教とは何か?」「どのように生きるべきなのか?」を回想したもので、その黙想の深さが読み取れる。



自らの司教叙階式の回想では、その典礼の所作やミトラや杖に込められている「仕える」ことに身を置く司教の役務を

激動のベトナムと13年の牢獄生活 「希望の軌跡」

アンドレ・グエン・ヴァン・チャウ 著
西井愛子 訳

共産党政権による13年もの投獄生活を余儀なくされたトゥアン枢機卿。だが彼は、そんな中にあっても希望を失わず持って生まれた誠実さでその困難を苦難を乗り越えた。教区に新しく頂いたベトナム人司祭たち。彼らの苦しみと彼らの祖国の人々の熱い心に触れたような気がする。そしてその過酷な国の歴史形成に日本がかかわっていたことにも気づかされる。

信 者 の 本 棚

思考

子ども達と真正面から向き合いたい関わりますと、彼らの心の中の泉からは、こんなと水がわき出て尽きる事のない、その豊かさに驚かされました。そう、十年ぐらいい前までは、今では、もう種で、豊かに満たされていたその水も涸れそうになってしまいました。

希望を紡ぐ

子ども達は生きる場(家庭、地域社会、学校など)の大きな変貌の中で喘いでいるように感じます。親が子どもを慈しみ愛し、子どもが親に信頼し安らぐという、ごく当たり前の関わりさえも壊れつつあることを、最近の子どもの関係する悲しい現場は、雄弁に物語っているように思います。確かに、私たちが日々を生きている時、思いがけないことが起きるのも事実です。そして、子ども達がそのような場に遭遇した時に、教育現場は、すぐに「心のケア」の専門家の派遣を要請します。「心の専門家」でなければ、対処できないという思い込みは、責任転嫁としか思えません。これも、「生きる」こと(つまり、人と人との関わりや、社会との関わり)を正しく教えてこなかった結果かも知れません。子ども達の「生きる力」(生命の泉)が社会全体の大きな変革によって、涸れてしまうのではないかと、一方では、しっかりと自分の頭で考え「生き抜く力」を持つ子ども達がいふことの「希望」を最後まで紡いでゆきたいという強い思いがあります。そのために、今、注視しているのが、「教育基本法改正案」の行方です。

教師として信者としてを追求

カトリック教師の会が黙想

教師の会(顧問司祭竹山昭神父)は七月二十九日(土)から三十日(日)、マリア山荘で今年度の黙想会「それでも 喜び・希望」

感謝 カトリック教育のめざすもの」を行った。七人参加、講師は郡山健次郎司教。同会による宿泊形式での黙想会はこれが四回目。

会の始めに司



司教の講話を真剣に聞く参加者たち

教は参加者に質問し、その回答をもとにカトリック教師のあり方を考えさせた。司教が指摘したのは次の点。①カトリック教師としてその信仰が一貫したものであるか ②理想が失われつつある現実の中で生徒に「こんな人になつて欲しい

い」という具体的なイメージを持つていないか ③教師として軸がぶれていないか ④そしてヨブ記からの話をたどるに「聞くことのできる人間」を育てていく必

要性を訴えた。講演と分かち合いが行われた一日目の夕食後には恒例の交流会が持たれた。二日目は、ザアカイのたとえ話から、立ち止まって一人の人間としてじつと話を聞いたイエスに学び、生徒に「この人にならなかつてもらえる」と思われているか、あるいは教師の生き方そのものが尊敬されているかを

堅信式と初聖体

家庭的な雰囲気の中での

今年の秋、献堂五十周年を祝う加世田教会とそ

の巡回教会枕崎教会の初聖体と堅信式が、八月二十日(日)枕崎教会であった。この日、枕崎教会に集ったのは五十人ほどの信者で、郡山司教と主任司祭泉神父、それにザ

カトリック教会に着任したばかりのベトナム人司祭アン神父の三人が司式した。福音朗読に続いて説教した司教はまず初聖体を受ける子ども二人に「いつも食べているご飯にはお母さんの心が込められていきます。今日から

門田 明氏の 鹿児島とキリスト教④

これまで、日本からの目でザビエルを語ってきた。一方、ザビエルもまた、日本の存在を知り、日本を求めていた。これから、ザビエルの目でその事情を辿ってゆきたい。

一五四八年一月二十日、コーチンからローマに宛てた手紙で、ザビエルはこう言っている。

「マラッカの町にいた時、私がたいへん信頼しているポルトガル商人たちが、重大な情報をもたらしまし



ザビエル上陸図

その島で私たちの信仰を広めれば、日本人はインドの異教徒には見られないほど旺盛な知識欲があるので、インドのどの地域よりも、ずっとよい成果が挙がるだろうとのことです。(聖フランシスコ・ザビエル全書簡・河野純徳訳 平凡社)

たしかに、孤立した島国の日本人は、情報の伝達が多量な大陸の民族とは異なり、遠い昔からまことに好奇心旺盛な民族であった。それは、つい最近発見された日本と呼ぶたいへん大きな島についてのことで、す。彼らの考えでは、

ザビエルはさらに続ける。「このポルトガル商人たちとともに、アンジロウと呼ぶ一人の日本人が来ました。彼はマラッカから日本へ行ったポルトガル商人(ジョルジュ・アルバレス)が私のことを話したので聞いて、私を探してここまで来たのです。このアンジロウは、青年時代に犯した罪についてポルトガル人に話して、こんな大きな罪を主なる神に許してもらった方法を求め、私に告解したいと思つて「マラッカ」来たのでした。：彼はかなりポルトガル語を話すことができます。私が言ったことを理解しましたし、私もまた彼の話が分かりました。」

これが、ザビエルと日本の最初の出会いとなった。

黙想した。

この二日間で参加者たちは教師としての現在のあり方が、福音的であるかを省み、最後のミサで会員たちの成長を祈った。

同会事務局では、今回の集いにも修道会からの参加者がいないなど教区全体の教師の集まりとならなかつたことを反省し、さらに集まりやすく学びやすい集いを検討したいとしている。



司教から油を塗られる受堅者

頂くご聖体にはイエズスさまの心が込められていますから、頂きますの代わりにイエズスさまのように生きていきますという意味のアーメンを元氣よく言うようにして下さい」と、また堅信を受ける四人には「堅信は大人になる式ですが、大人になるといふのは他人の気持ちに分かるようになることです。皆さんはイエズスの気持ちに分かる信者になつて下さい」とメッセージを贈った。

「短信」

▼夏期集中講座

恒例の夏期集中講座が今年も竹山昭神父(紫原教会)によつて八月二十一日(月)から二十五日(金)



今年も大勢が集った

ミサ後は、司教を囲んで記念撮影をし、その後、隣接する幼稚園で茶話会が開かれた。茶話会は心のこもつた料理を持ち寄

カトリック幼稚園 教師研修会

鹿児島教区カトリック幼稚園教師研修会が、七月二十四日(月)から一泊二日霧島国際ホテルで開かれた。今年で二十八回目となった同研修会に参加したのは、本土地区にある十七幼稚園のうち、大雨の被害に見舞われた一園を除く十

六幼稚園からの百四十人余りの関係者。

講師は鹿児島純心女子短期大学副学長で、昨年、人間の機微に触れたエッセイ集「遠い宴」を著した濱里忠宜先生。

先生は「子どもたちのかなしみ」をテーマに「子どもは未熟なのではない。その子どもの叫びを聞くことのできない大人に問題が

9月

今月の暦

- 1日(金) 川瀬勇神父命日(一九九七年)
- 3日(日) 年間第二十二主日
- 8日(金) 聖マリアの誕生
- 10日(日) 七田和二郎神父命日(一九八九年)
- 14日(木) 年間第二十三主日
- 15日(金) 十字架架祭
- 17日(日) 糸永真一司教叙階記念日(一九五五年)
- 18日(月) 鹿児島教区司教座教会献堂記念日
- 18日(月) 年間第二十四主日
- 19日(火) 教区司祭会・教区本部
- 21日(木) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 23日(土) 聖マタイ使徒福音記者
- 23日(土) ダニエル神父命日(二〇〇三年)
- 24日(日) バルビニ神父命日(二〇〇四年)
- 24日(日) 年間第二十五主日
- 27日(水) 世界難民移住移動者の日(献金)
- 27日(水) メニヒ神父叙階記念日(一九五九年)
- 29日(金) 有馬信茂神父叙階記念日(一九五九年)
- 29日(金) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使

.....

までカテドラル一階ホールで開かれた。今年のテーマは「ルカ福音書に学ぶ」。第十五回目となった今年の講座には午前、午後合わせて九十人近い信者が参加し、熱心に学習した。

ある」と、様々な事例を紹介しながら純粋で無垢な子どもの心を紹介した。

溝辺教会ミサ

主日ミサ
7:00 修道院
9:30 マリア山荘

週日ミサ
7:00 修道院

※9月3日(日)から

第3回聖パドレ・ピオの集い・黙想会

日時: 9月22日(金) 14時 場所/ザビエル教会小聖堂

日時: 9月23日(土) 13時30分 場所/名瀬聖心教会聖堂

指導: ペトロ神父(カプチン・フランシスコ会)

内容: 聖体賛美式 ロザリオの祈り いやしの祈り ミサ 自由献金

小さく貧しい祈りの集い

明光学園人形を製作販売

九月十七日「大口明光学園バザー」で

昨年九月、「大口明光学園人形」がバザーに登場しました。製作者は、後援会と育成会、卒業生の皆さんです。

「私どもは長い間、学園のバザーにかかわってきいて、いろいろな作品を作っ



愛くるしい大口明光学園人形

てきました。そんな中で、今の物が溢れた世の中にならざるに物は何だろうと考えた結果、不用になった制服で明光生の人形を作ることを思いついたのです。着せ替えるようにになっていて、制服を忠実に作っています。

昨年とはとても好評で、十五体の人形が一時足らずで完売しました。その時の感激が今年に繋がったと思っています。今年もマスコット人形など、学生さんにも手ごろな価格で登場します。

明光人形を通して学園の素晴らしさ、制服の清楚さを多くの方々を知って欲しいです。明光人形は皆様の温かい思いの中で誕生しました。きつこの思いは明光生にも還元できると思います。

今年もまた、木曜日のバザー準備の作業日に、たくさんの方々の協力で素晴らしい人形が誕生しました。長い年月を経ても、卒業生、父兄の方々がいままで明光学園を慕って協力して下さい。とても素晴らしい共同作業だと思えます。

「ザビエル様への手紙・川柳展」
 優秀作品紹介
 ザビエル生誕五百年を記念して行われた同展には、ザビエル様への思いがいっぱい詰まった作品が教区内から全部で二十三点寄せられ、八月十三日のザビエル上陸記念祭中にザビエル教会で展示された。作品

夏の思い出



各地の教会ではキャンプやバーベキューが行われ、それぞれの親睦を深めるとともに、良い夏の思い出となった。



楽しいスイカ割り (始良教会)



マリヤ山荘でキャンプ (鴨池教会)

スピリチュアルケア研修会

テーマ：第14章「チームワーク」
 講師：W・キッペス神父
 日時：10月15日(日) 9時30分～16時30分
 場所：県文化センター第三会議室
 研修費：五千円
 申込・お問合せ先
 奥村 〇九九二二八二二二九二二六
 松村 〇九九二二五二二二一六四四

ザビエルさまの勲業道
 ザビエル様と歩こう
 ザビエル上陸記念祭が盛況のうちに終わり、皆様のご協力に感謝したい。様々な催しの中、青年たちを中心に行われた徒歩巡礼は参加者約百人と大盛況だった。ザビエル様の苦勞、喜び、その歩みを思いながらの巡礼は、参加者の心に残るものだった。
 青年たちのザビエルを思い起こす歩みは止まらない。次は十月一日にザビエル様と島津貴久の会見の地(伊集院)まで歩くそうだ。きつとザビエル様と共に歩くすばらしい巡礼になるだろう。

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

純心中学 浜田香奈
 テニスコート汗で染まるよインターハイ
 テニス部や日焼けが見えぬ夜の道
 (評)「汗で染まるよ」と呼びかけているのもよい。結句の「夜の道」が佳作とした。

純心学園 山頭信子
 ティエン司祭祖国離れて叙階式
 奄美 松畑義弘
 炎天の池の底まで照りにけり
 鹿見島 春山マリ子
 父と子の七夕遊び想いおり
 (評)七夕遊びの思い出が感じられる

純心学園 川上 和
 ひまわりの顔になりたいこの夏も
 鹿見島 徳永ノブ子
 音もなくのうぜんかづらこぼる庭

出水 遠竹陸郎

独りして祈りて夏の夕餉撰る

純心学園 田村鏡子
 さくらの樹みえぬ所て美しく

臥す夫の寢息しずまる夏の夜
 鹿見島 本城 愛

点滴のしづく数ゆる残暑かな
 鹿見島 龍門司真人

短歌 (思川短歌会作品)

奄美 林 常広
 自転車転んで足を骨折しベッドに
 ふせる妻を見守る
 (評)愛しきは言葉で表現し感じるものです。短詩も同じ「妻を見守る」の結句が尊い。

出水 遠竹陸郎
 降り止まぬ豪雨の夜に兄弟は古里案
 じて電話寄しぬ

純心学園 川上 和

白雲の走る行く手の島々に喜び告げよ
 司祭誕生を

(評)「喜び告げよ」の願が一首の「詩」となった。

明光学園 森 博伸
 尻つばを踏みネコに怒鳴られとびのいた
 主人顔する居候ネコ

阿久根 中津濱フサエ
 百歳の受洗を祝し代母となり永遠の
 恵みを神に祈らん

鹿見島 前田儀子
 聖地への旅かなはざりし亡き妹を想
 ひ木のマリヤ像やさしく磨く

鹿見島 春山マリ子
 もう二度と恋はしないと決めている
 考え過ぎて疲れ果ていつ

手紙

谷山教会 おがたさく
 しんぶさまへ ふらん
 しすこびえるさまへ

いつもまもつてくれて
 ありがとうございます。に
 つぼんにいらしたときには
 たいへんでしたね。ふらん
 しすこびえるさんはおな
 かがすいていたけどたのし
 くりんごであそんでいた
 ね。わたしもおなかすい
 てもみんなとなかなかよく
 します。(小一)

谷山教会 川下兼太郎
 ザビエル様へ

日本にキリスト教を伝
 えて下さり、ありがとうご
 ざいます。日本に、キリス

催しのご案内

一日のマリアポリin鹿見島

テーマ：「一致を目指して」(現代社会への一つの提案。それは一致と普遍的兄弟愛)

日時：10月15日(日) 10時～16時
 (受付9時30分) 15時からミサ(司式 郡山健次郎司教)

場所：鹿見島教区本部棟
 ※ご家族、お友だちもお誘いになって、どうぞご参加下さい。心からお待ちしています。当時は子どものプログラムもあります。昼食はお持ちになるか、もしくはお早めにご注文下さい。

問合せ先
 鹿見島市魚見町119-7
 直 泰江 tel099 (267) 1421
 長崎フォコラーレ・センター
 tel095 (848) 7281 fax095 (849) 3812
 eメール naga.ff@seagreen.ocn.ne.jp

臨床パストラルケア第9回全国大会

日時：11月11日(土) 12時45分～12日(日) 15時30分

場所：福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル

テーマ：個人の内的パワー
 内容：基調講演 島蘭進(東京大学教授) 講演 小田博志(北海道大学助教授) 鈴木育三(社会福祉法人「新生会」理事) 萩原 優(聖マリアンナ医科大学客員教授) W・キッペス(臨床パストラルケア教育研修センター所長)

参加費：2日間1万円(会員9千円)
 問合せ先：第9回全国大会実行委員会
 事務局 井口憲一郎
 tel0942-32-4873 fax0942-32-3586
 参加受付：(株)オフィステイクワン
 第9回デスク 担当/武田高典
 tel052-930-6145 fax052-930-6146